

Book's Sound

「1人」だったものが、聞くという動作を行うことで
想像を掻き立て本の世界に入り込めたり、「自分以外の人」と感動の共有をすることができるのではないかー



設計趣旨



この設計のコンセプトは〈本を聴く〉である。最近では電車に乗り「ながら」、料理をし「ながら」本を聴くアプリケーションに需要がある。このアプリケーションの良い点は、活字を見ると眠くなってしまう人が本を読めたり、何かをし「ながら」本を読むことで時間の効率化がはかれる点である。活字離れが世間的に話題にあがり、忙しい現代の人々に対し大変魅力的である。

反対にアプリケーションの悪いところを挙げるなら、デジタルデバイスが持てない・使いこなせない子供、高齢者、障害者は利用しづらい点や、音声聞き取りににくく内容に集中できない、聞いているだけだと頭に入らないという意見がインターネット上の口コミに書かれていた。



コンセプト

本を聞くこの機能を活かした店舗を作れないだろうか？
小さな子供がフラッと立ち寄ればデバイスが読み聞かせをしてくれる場所であり、自分の好きなアイドルや声優の声で本を聴ける場所、又は友人と一緒にしゃべりながら本を聴いて、その場で感想を共有できるような場所であり、語学的・語彙的に読めない本が読めるようになれる場所を作りたい。

また、現在の本に関わる施設といえば図書館や本屋さんが代表で挙がるが、その場所は全て「静かに1人で本に関わる場所」となっている。自分の今聞いた本の感想を同時に居合わせた人に共有し合えるような場所があれば、本好きの人にとってコミュニティをもてる場所になれるのではかい。人と本を一緒に読める、人と感動を共有し合える居心地のよい場所をコンセプトにカフェと複合させた本の場所を設計する。

ダイアグラム

子どもと聴く

友達と聴く

コミュニケーション

自然と聴く

ベットと聴く

子どもが座り込んで本を聴ける場所や、友達と話しながら本を聴ける場所、寝っ転がりながら本を聴ける場所や自然に触れながら本を聴ける場所等、様々な人が居心地良く本を聞ける場所を作る。
その上、真ん中のコアになる部分には大きなカウンターを作り、カフェのご飯やお酒を嗜みながら人と共有できるようなコミュニティーケーションの場所を作った。

コミュニケーション



今回の設計の大きな目的の一つである、自分と他人との〈共有〉が目的。天井から流れてくる音を聴きながら一人で想像を膨らませても良いし、本が読み終わったなら「どんな本を聴いた?」「私はこう感じたけど君はどう感じた?」という会話が広がるが場所。日本ではご飯をたべながら本を読むことは行儀が悪い行為とされているが、スピーカーから音声が行っている場所であれば本を読みながら食事をすることもできるというアイデアからカフェらしいカウンターを設置した。

自然と聴く



自然の中で本を読むと気持ちが良いように、聴く時も自然に囲まれていれば居心地の良い空間で想像力も働くのではないかと考えた。デッキのすぐ近くに木が生えているので木漏れ日の中でゆっくりとした時間を過ごすことができる。

ベットと聴く



「寝ながら本が読めたら」と誰しもが一回は思ったことがあるのではないか。寝っ転がり目を閉じながら本の世界に入り込めたら良い夢が見られそうな気がする。そして、睡眠学習の実践もすることができるので語学の勉強ができるかもしれない。

友達と聴く



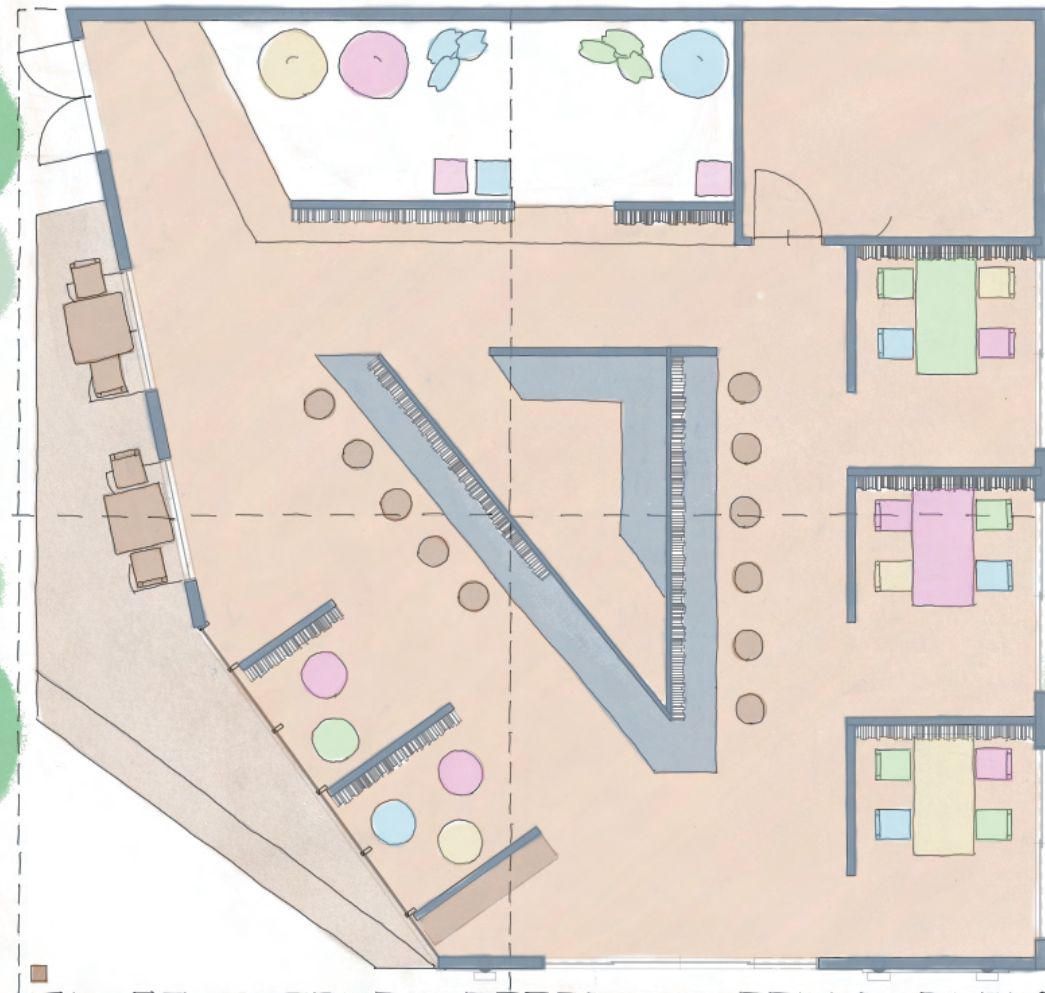
自分の好きな声で読まれる本を同じ趣味の友人と聞けたら、精一杯楽しめるのではないか。大人になってから「一緒に本が読める」不思議体験。

子どもと聴く



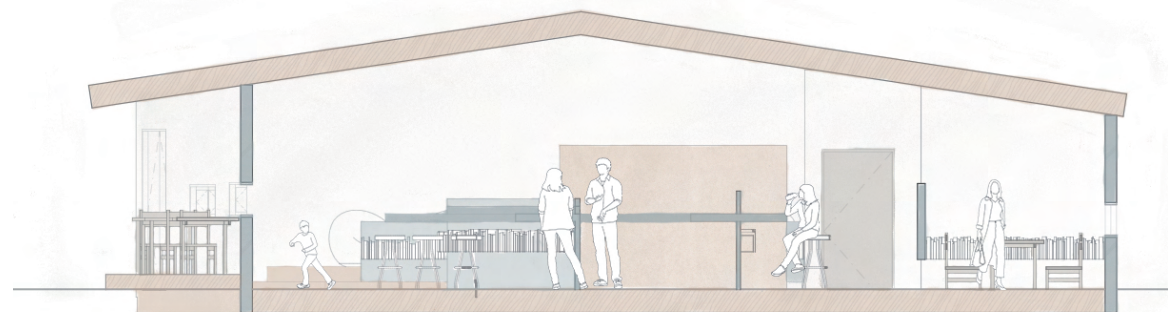
読み聞かせをしてもらえることで本に興味を持てる、読めなかった本が読めるようになれるのではないか。

S-01



S-01

▲1/100 平面図



▲1/100 断面図



▲1/100 南面立面図